



# Switching from subcutaneous insulin injection to oral vildagliptin administration in hemodialysis patients with type 2 diabetes: a pilot study

著者名	吉田 直史
発行年	2016-10-21
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/00032144">http://hdl.handle.net/10470/00032144</a>

# 主論文の要旨

Switching from subcutaneous insulin injection to oral vildagliptin administration in hemodialysis patients with type 2 diabetes: a pilot study

(2 型糖尿病透析患者における皮下インスリン注射からビルダグリプチン経口投与への切り替えに関するパイロットスタディ)

東京女子医科大学第三内科学教室

(指導:内潟 安子教授)

吉田 直史

International Urology and Nephrology 48(8), 1349-1355,2016 に掲載

【目的】 インスリン治療中の 2 型糖尿病血液透析患者において、ビルダグリプチンへの切り替えの有効性を予測する因子および安全性を明らかにする。

【対象および方法】 当科でインスリンからビルダグリプチンへ変更した 2 型糖尿病血液透析患者 20 名を抽出、変更後血糖コントロールの悪化を認めなかった場合を切り替え「有効」、コントロールが悪化した場合を切り替え「無効」と定義した。切り替え有効・無効の予測には受信者動作特性 (ROC) 解析およびロジスティック回帰分析を用いた。安全性評価は、有害事象としてケトアシドーシスおよび低血糖症状の有無を確認した。

【結果】 20 名中切り替え有効、無効例はそれぞれ 11 名、9 名であった。切り替え有効と有意に関連した因子は糖尿病罹病期間、GA および HbA1c あった。観察期間中、上記有害事象は認めなかった。

【結論】 インスリン治療下の 2 型と糖尿病透析患者において、血糖コントロールが良好な場合、DPP-4 阻害薬への切り替えが安全に行える可能性が高いと考えられた。